



2022 年度
看護栄養交流センター

成果報告書

(第4号)

はじめに

看護栄養交流センターでは、保健師、助産師、看護師、管理栄養士、栄養士等専門職を対象とした活動と、看護学・栄養学の教育研究活動を通して得られた知見を、広く地域住民の方に還元していく活動の大きく二つの機能を備えています。

地域住民の方に還元していく活動として、公開講座、ぎんざんテレビ出前講座、いずも健康市民大学などを実践しており、令和4年度の公開講座・いずも健康市民大学の参加者は33名でした。コロナ禍、なかなか対面での講座を開講できず、オンデマンドに切り替えるなど工夫を凝らして実施しました。また、小中高校等出前講座では島根県助産師会と連携し、小学生を対象としたバースデープロジェクトの講師を多く務め、性（生）の健康教育に貢献しました。出雲市との共同事業として、介護予防教室を新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら実施いたしました。

専門職の教育力・研究力・実践力向上に向けた支援では、看護教員継続研修や実習指導者フォローアップ講習会を開催しました。その他、シミュレーション教育および栄養学の研究支援や研修会も実施しました。

認定看護師養成部の活動では、感染管理のB課程開設に向け申請し、12月に認可を受けました。次年度4月開講に向け、入試説明会を開催したり、実習施設の確保や入学試験を実施するなど準備を進めて参りました。19名の入学予定者も決まり、4月6日の入学式を待つばかりです。

また、タウンミーティングはここ3年中止しておりますが、モニター会議は書面で実施しました。次年度はぜひ開催の方向で検討しています。

看護栄養交流センターでは、専門職の学び直しに向け新たに履修証明プログラムの実施を予定するなど、常に時代に合った内容・方法で地域貢献や専門職の方への教育研究支援に取り組んでまいります。どうか地域の多くの皆様に本キャンパスの地域連携活動の取り組みの一端をご高覧頂き、ご批正を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

副学長 石橋照子

センター長 挨拶

平素から看護栄養交流センターの活動には温かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の猛威は一向に治まる気配がなく、ここ3年間事業計画を予定通りに実施できない状況が続いております。そんな中ではありますが、今年度も、開催方法の変更や縮小を行いながら何とか活動を続けることができました。心より感謝申し上げます。

「看護栄養交流センター」は、地域と大学の橋渡しをすることを目的とし、大学がもつ資源を活かして地域のニーズに応え、地域と協働することを使命として活動しています。センターには、キャリア・研究支援部、地域連携推進部、認定看護師養成部の3部門を設け、教職員全員が役割をもち事業を展開しています。

キャリア・研究部におきましては、現場の看護職及び管理栄養士・栄養士の実践力、教育力、研究力の向上に向けて事業を展開しました。実践力や教育力を高めることを目的とした研修事業や、研究力の向上を目的とした、研究に関する総合的な相談・支援等を行いました。「実習指導者フォローアップ研修」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、一度は延期となったものの対面で実施し、28名の方にご参加いただきました。久しぶりの対面でのグループワークやディスカッションにより、参加者にとって、とても充実した満足度の高い研修となりました。

専門職向けのもう一つの部門である認定看護師養成部においては、感染管理認定看護師教育課程【B課程】開設に向け準備・申請し、12月に認可を認められました。2月には、2023年度開設に向けて入試を行い、19名の入学予定者が決まりました。

地域連携推進部では「生涯学習」「教育機関との連携」「産公学連携」「広報・広聴活動」の5つの事業を展開しました。地域住民を対象とした「公開講座」「いずも健康市民大学」は新型コロナウイルス感染症感染予防のため、今年度もオンライン形式の研修となりましたが、公開講座では、申込者数18名、延べ再生回数122回と、場所・時間を問わず繰り返し視聴できるオンデマンドならではの良さが生きた結果であったと思います。今後はこのオンライン研修の利点を生かしつつ、幅広い対象にご参加いただくことができるよう新たな方法を確立していくことができればと思います。

今後とも、地域に信頼される大学をめざし、事業を継続し、地域とのつながりを強化していきたいと考えております。一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター
センター長 名和田 清子

目 次

はじめに	1
センター長挨拶	2
2022 年度成果報告書	
I. 看護交流センターについて	5
1. 看護栄養交流センターの設置目的	
2. 事業概要	
3. 実施体制	
4. 看護栄養交流センター運営会議	
5. 看護栄養交流センター外部委員会	
II. 2022 年度事業実績	
1. キャリア・研究支援部	11
1) 実践力の向上	
2) 教育力の向上	
3) 研究力の向上	
4) 保健・医療・福祉機関等との連携	
2. 地域連携推進部	25
1) 生涯学習	
2) 教育機関との連携	
3) 産公学連携	
4) 広報・広聴活動	
3. 認定看護師養成部	39
III. 資料	43

I. 看護栄養交流センターについて

1. 看護栄養交流センターの設置目的

看護栄養交流センターは、大学と地域をつなぐ拠点として2013年10月に前身の「島根県立大学しまね看護交流センター」を設置し、2018年4月に「看護栄養学部」が設置されるのに伴い、「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」（以下「センター」という。）と改称した。

島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士等の質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学及び栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的に、大学と地域をつなぐ拠点として2013年10月に設置した。

2. 事業概要

センターには、「キャリア・研究支援部」「地域連携推進部」「認定看護師養成部」の3つの部を設置し、大学の機能を活かした地域貢献活動を推進している。

1) キャリア・研究支援部

専門職（看護職、管理栄養士、栄養士）のキャリア形成、研究活動の支援ならびに研究成果を広く社会へ還元するため、以下の4つのプロジェクトを展開している。

①実践力の向上、②教育力の向上、③研究力の向上を目的とした研修事業、④保健・医療・福祉機関等への講師派遣等

2) 地域連携推進部

健康と看護をめぐる地域社会のニーズや課題に応え、地域と協働し、地域に開かれた大学を実現するため、①公開講座等の地域住民の生涯学習を支援する事業、②学生のボランティア活動の支援、③小中学生を対象とした出前講座や体験学習、④産官学連携、⑤地域の声を大学運営に活かすための広報・広聴活動等、幅広い活動を行っている。

3) 認定看護師養成部

緩和ケア分野及び認知症看護分野の教育課程は2020年度から休講中であったが、新たに島根県からの要請を受けて特定行為研修を含む感染管理B課程の開設準備を行った。日本看護協会から教育機関としての認可を受け2023年4月から新課程を開講する運びとなった。

3. 実施体制

本センターは、島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき運営する。

1) センター構成員

センターの構成員は、出雲キャンパスに所属する全ての専任教職員である。センターには、以下の職員を置く。

(1) センター長：1名（兼務）

(2) 部長：3名（兼務）

(3) プロジェクトリーダー：（兼務）

(4) プロジェクトスタッフ：部長・リーダーを除く専任教員

(5) 管理課地域連携推進室職員：2名（兼務）

表1 2022年度看護栄養交流センター事業担当者

部 (部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名		担当 ○主担当	
キャリア・研究支援部 (加藤典子)	実践力の向上 (松本玄智江)	シミュレーション研修1 「静脈注射」 (島根県看護協会連携事業)		○佐藤美紀子 横山淳美 松本祐香 園山純代	
		シミュレーション研修2 「フィジカルアセスメント」 (島根県看護協会連携事業)		○横山敦美 松本玄智江 小田香澄 安部史子	
		シミュレーション研修3 「看護職のための新生児蘇生法 『専門』」		○植田恵 秦幸吉 井上千晶 藤田小矢香	
		助産師キャリアラダー研修 (島根県助産師会共催事業)		○濱村美和子 狩野鈴子 中谷陽子 石原愛弓	
		地域・在宅看護学研修		○加藤典子 阿川啓子 吉松恵子 板持智之	
		在宅訪問栄養指導事例検討会		○名和田清子	
		SP派遣		○松本玄智江	
	教育力の向上 (加藤典子)	実習指導者養成講習会 (島根県委託事業)		※隔年開講のため 2022年度は休講	
		実習指導者フォローアップ研修 (島根県委託事業)		○平井由佳 安部史子	
		看護教員継続研修 (島根県委託事業)		○加藤典子 園山純代	
	研究力の向上 (名和田清子)	臨床看護研究計画書立案研修		○藤田小矢香	
		研究に関する相談・支援窓口			
		個別研究支援	看護		○松本玄智江
			栄養		○名和田清子
		共同研究	看護		○松本玄智江
			栄養		○名和田清子
		栄養学研究支援研修		○名和田清子	
	保健・医療・福祉 機関等との連携 (名和田清子)	保健・医療・福祉機関等への講師派遣		○名和田清子	

部 (部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名	担当 ○主担当
地域連携推進部 (日野雅洋)	生涯学習 (日野雅洋)	公開講座 (一般対象・関係機関との連携講座)	○日野雅洋 石田千津恵
		地域・団体主催による出前講座	○石田千津恵
		ぎんざんテレビ出前講座	○石田千津恵
	教育機関との連携 (日野雅洋)	小中高校等出前講義	○日野雅洋
		小中学校体験学習	
	産官学連携 (加藤典子)	出雲キャンパス支援ネットワーク事業	○名和田清子 林健司
		包括協定締結自治体との連携	○名和田清子
		受託研究・受託事業	○松本亥智江
		NP0 法人・関係団体・企業等との連携	○佐藤基 的場好信
		各種審議会・委員会への参加	○名和田清子
	広報・広聴活動 (松本亥智江)	キャンパスモニター会議	○松本亥智江
		シニア・ジュニア キャンパスツアー	○松本亥智江
		県立大学発 健康寿命延伸プロジェクト in ますだ (島根県栄養士会連携事業)	○名和田清子 石田千津恵
		タウンミーティング	○松本亥智江

部 (部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名	担当 ○主担当
認定看護師養成部 (林健司)	認定看護師 リカレント教育	フォローアップに関すること	○林健司 松本亥智江 佐藤基 荒木さおり
	感染管理 認定看護師 教育課程開設準備	教育課程開設に関すること	○林健司 松本亥智江 佐藤基 地域連携推進室職員

4. 看護栄養交流センター運営会議

島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき、学内の教職員を構成員とする島根県立大学看護栄養交流センター運営会議を開催し、センターの運営に関する事、事業計画の策定及び進行管理に関する事、その他センターの運営に必要な事について協議し、2022年度は2回開催した。

1) 看護栄養交流センター運営会議構成員

表2 看護栄養交流センター運営会議構成員

構成員	職名	氏名
副学長	教授	石橋 照子
看護栄養学部長	教授	梶谷 みゆき
看護学科長	教授	高橋 恵美子
別科長	准教授	狩野 鈴子
健康栄養学科長	教授	直良 博之
看護栄養交流センター長	教授	名和田 清子
キャリア・研究支援部長	准教授	加藤 典子
地域連携推進部長	助教	日野 雅洋
認定看護師養成部長	准教授	林 健司
地域連携推進委員会委員長	教授	(兼) 名和田 清子
地域連携推進委員会委員	准教授	松本 亥智江
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 加藤 典子
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 林 健司
地域連携推進委員会委員	助教	(兼) 日野 雅洋
地域連携推進委員会委員	助教	石田 千津恵
地域連携推進委員会委員	助教	佐藤 基
事務部長		荒本 弘美
管理課長(地域連携推進委員)		的場 好信
学務課長		坂田 栄一郎
事務局(管理課地域連携推進室長・地連委員)		澤田 仁美
事務局(管理課地域連携推進室・地連委員)		矢島 史江

2) 看護栄養交流センター運営会議開催状況

(1) 第1回センター運営会議

開催日：2022年4月25日（月） 10：40～11：10

場 所：Teamsによるオンライン会議

出席者：13名（4名欠席）

議 事：①2022年度事業計画・事業担当者について

②2021年度外部委員会意見に対する対応策について

③その他

(2) 第2回センター運営会議

開催日：2023年3月20日（月）

方 法：Teamsによるオンライン会議

出席者：13名（4名欠席）

議 事：①2022年度外部委員会開催について

②2023年度事業計画について

③その他

5. 看護栄養交流センター外部委員会

島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき、センターの業務に関し、調査審議を行うため、外部委員会を開催し、センター事業について外部委員との意見交換を実施し、外部評価をセンターの運営および事業に反映する。2022年度は3月に郵送による書面会議にて開催した。

1) 看護栄養交流センター外部委員会委員

表3 看護栄養交流センター外部委員会委員

(50音順 敬称略)

所属・役職	氏名
島根県立大学短期大学部 名誉教授	飯塚 雄一
フリーライター	門脇 奈津子
島根県出雲保健所 所長	中本 稔
松江赤十字病院栄養課 課長 島根県栄養士会副会長	引野 義之
島根県教育庁教育指導課 指導主事	真玉 保浩

2) 外部委員会開催状況

開催日：2023年3月

方 法：郵送による書面会議

出席者：センター外部委員：5名

センター運営会議構成員：17名

議 事：①2022年度看護栄養交流センターの組織・執行体制について

②2022年度看護栄養交流センター事業について

③外部委員による調査・審議結果について

④その他

I-1. シミュレーション研修1：静脈注射

1. 目的

静脈注射を安全・正確に実施できる技術を修得し、看護職の実践能力を高める。

- ① 静脈注射の特性が理解できる。
- ② 静脈注射に伴う危険性，安全対策が理解できる。
- ③ 静脈注射の方法，そのエビデンスが理解できる。
- ④ シミュレーターを用いて安全に静脈注射が実施できる。

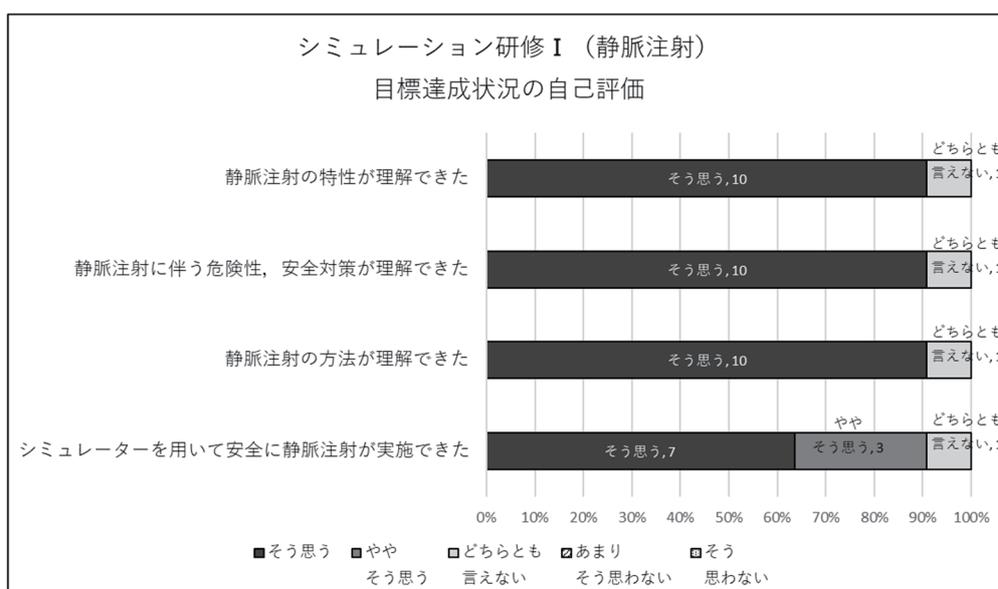
2. 事業内容：静脈注射の基礎：講義・演習

3. 事業実施状況

- 1) 日 時：2023年2月14日 10：00～16：00
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス
- 3) 講 師：佐藤美紀子，横山淳美，松本祐香，園山純代（島根県立大学看護栄養学部看護学科）
- 4) 対 象：復職検討中の看護職，介護福祉施設等でスキルアップを図りたい看護職
- 5) 参加者：11名

4. 成果

参加動機は「復職の際の技術の不安」「経験の不足」等であった。講義で静脈注射の基本事項を理解した上で，シミュレーターを用いて繰り返しトレーニングしたことにより，参加者からは「静脈注射の注意点，神経の走行などについて学び直すことができた」「不安だった手技が，繰り返しトレーニングすることで自信となった」「血管に針が入った時の角度や感覚を知ることができた」等，参加の目的を果たすことができた。また，アンケート結果から，9割以上の参加者がトレーニングの目的達成を果たすことができた。目的達成について「どちらとも言えない」と中立的な回答をした参加者は，「講義資料を読み返し，今後も継続してトレーニングすることで技術を確実に身につけた」と自己の課題を明確にすることができた。（図参照）



5. 課題

参加者のニーズに沿った研修を実施し，目的達成を果たすことができた。復職検討中の看護職，診療所や介護福祉施設等に所属する看護職においてはニーズの高い研修であり，今後も継続して開催する必要がある。

I-2. シミュレーション研修：フィジカルアセスメント

1. 目的

基本的なフィジカルアセスメント能力を身に付け、患者の状態を的確に判断し、看護を提供できる看護職を育成する

2. 事業内容

	2月27日(月)	2月28日(火)
午前	講義・演習	事例1：臨床判断（討論・演習）
午後	講義・演習	事例2：臨床判断（討論・演習）

3. 事業実施状況

- 1) 日 時：2023年2月27日(月)・28日(火)
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス
- 3) 講 師：島根県立大学看護栄養学部看護学科 ○横山 淳美, 松本玄智江, 安部 史子, 小田 香澄
- 4) 対 象：復職を考えている看護職, 介護福祉施設等でスキルアップを図りたいと考えている, 原則1年未満の看護職
- 5) 参加者：3名

4. 成果

参加者は、27日(月)3名、28日(火)2名だった。

- 1) 講義内容のわかりやすさ：「とてもそう思う」1名、「ややそう思う」1名
理由 ・ 学習した内容をシミュレーションできるのでわかりやすい
・ 量が多い
- 2) 講義内容は今後活かせるか：「とてもそう思う」2名
理由 ・ 知りたい情報があった
・ 必要な技能・知識をしっかりと学ぶことができた
- 3) 演習内容のわかりやすさ：「とてもそう思う」1名、「ややそう思う」1名
理由 ・ 自分には難しすぎた
・ できていたところと不足しているところをしっかりと把握できた
- 4) 演習内容は今後活かせるか：「とてもそう思う」2名
理由 ・ 臨床で活かせる技能や報告方法を学ぶことができた
・ 実際に起こりうる内容だった
- 5) 研修方策への自由意見：2名からは「循環器のフィジカルアセスメント」等のテーマ別の1日研修で複数回あるいは単回のみ希望があった。

5. 課題

本研修における受講生の評価は概ね高かった。一方で、参加者が1日目3名、2日目2名であったため、研修設計に見直しが必要である。今回の参加者の意見と過去の研修者の意見を踏まえ、研修時期や受講者ニーズに適した研修デザインの修正が必要である。



II. 助産師キャリアラダー研修

1. 目的

助産師の助産実践能力を高め、ラダーに応じた知識や技術のブラッシュアップを図る。

2. 事業内容

助産師の卒後教育として「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」申請，または再申請用のプログラムを提供する。

3. 事業実施状況

1) 日 時：2023年2月1日（水）～3月14日（火）17時

2) 方 法：オンデマンド配信

3) 内 容：講演

テーマ「妊娠期から授乳期における母子栄養」

講師 島根県立大学 名和田清子 氏

「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」申請認証済

4) 対象：助産師，看護師，学生，一般

5) 申込者：33名，視聴者：延べ41名，修了証発行：17名，参加証発行：2名

4. 成果

助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー/CLOCMiP®レベルⅢの認証制度）の承認研修は県内での開催が多くないため受講機会が少ない状況にある。今年度も，新型コロナウイルス感染症拡大に伴い，オンデマンド配信にて実施し，「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」申請・再申請に寄与した。

5. 課題

助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー/CLOCMiP®レベルⅢの認証制度の「必須研修」は，対象者を広く国内の助産師とすることが承認の条件とされている。効果的に広報を行うためにも助産師職能団体との共催も検討する。

Ⅲ. 在宅訪問栄養指導事例検討会

1. 目的

島根県での在宅訪問栄養指導を推進することを目的とする。具体的には現状の課題抽出、人材育成を目的とし、在宅訪問栄養指導に関わる島根県内の管理栄養士が参加し、事例検討、意見交換を行うこととした。

2. 事業内容

在宅訪問栄養指導を実施している、または、今後在宅訪問栄養指導を始めようとしている管理栄養士と本学担当で情報共有、意見交換を行う会を開催した。

3. 事業実施状況

1) 日時及び参加者数

第1回：日時	2022年4月20日(水)	19:00~20:00	(11名)
第2回：日時	2022年6月15日(水)	19:00~20:00	(13名)
第3回：日時	2022年8月17日(水)	19:00~20:00	(13名)
第4回：日時	2022年10月19日(水)	19:00~20:00	(10名)
第5回：日時	2022年12月21日(水)	19:00~20:00	(7名)
第6回：日時	2023年2月22日(水)	19:00~20:00	(10名)

2) 開催形式：オンライン (Zoom)

4. 成果

在宅訪問栄養指導を実施する上での課題を共有し、在宅訪問栄養指導を推進していく上での課題解決に向けて意見交換を行うことができた。

5. 課題

島根県では、在宅訪問栄養指導を実施する施設が少しずつ増加しているものの、まだ、実施できていない地域が多いのが現状である。今後、在宅訪問栄養指導を推進するにあたり、在宅訪問栄養指導の広報、多職種連携、さらなる管理栄養士のスキルアップが必要である。今後は、管理栄養士間での情報共有はもちろんのこと、多職種間で意見交換を行える場を設定していくことが大切であると考えられる。

IV. SP 派遣

1. 目的

島根県内に従事する看護職等が、場に応じた的確な臨床判断，確実な援助行為が行えるよう，臨床現場におけるシミュレーション教育を支援するための環境の整備を行う。

2. 事業内容

本学の SP（模擬患者）養成講座を修了した SP の派遣・調整を行う。また，医療施設においてシミュレーション教育を実施する際，模擬患者派遣に関するサポートを行う。

3. 事業実施状況

看護総合演習 I（コミュニケーション事例）に SP を派遣した。

2022 年 6 月 21 日 5 名

2022 年 6 月 28 日 4 名

2022 年 6 月 28 日 3 名 計 12 名

4. 成果

COVID-19 の蔓延に伴い，学内演習への SP 参加ができない状況が続いていたが，今年度は学内演習 1 件について，SP を派遣することができた。SP 参加による演習に対しては学生からも高い評価が得られた。

5. 課題

COVID-19 の感染状況が落ち着いてくれば模擬患者の派遣の需要は高くなることが予測される。引き続き安定した SP 派遣ができるように準備していく必要がある。安定的な SP 派遣が継続できるために，本学の SP（模擬患者）養成講座の充実と修了者のフォローアップを行い，SP の質の維持・向上が課題である。「しまね模擬患者の会」と連携して事業を実施していくこととする。

I. 令和4年度 実習指導者フォローアップ研修

1. 目的

看護職員実習指導者養成講習会受講修了者が、臨床で実習指導を担当している中で自己の課題を明確にし、看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識・技術を修得させ、もって実習指導者の資質の向上と看護実習の強化を図ることを目的とする。実習指導者としての資質向上を図り、看護学実習の一層の充実を図る。

2. 事業内容

「島根県実習指導者フォローアップ研修事業」を島根県より委託を受け、研修会の企画・運営・実施した。研修は、指導場面を事例検討により振り返り、グループディスカッションを経て、指導観の再構築を図った。

3. 事業実施状況

- 1) 日時：令和5年1月26日（木） 10：00～15：00
- 2) 場所：島根県立大学出雲キャンパスラーニングコモンズ
- 3) 講師（演習ファシリテーター）：井上千晶准教授，林健司准教授，平井由佳准教授，佐藤美紀子講師，松谷ひろみ講師，安部史子助教
- 4) 参加者：島根県内の病院・施設等の実習指導者，看護師等養成所の教員 28名

4. 成果

研修後の参加者からのアンケート結果より、すべての参加者が研修への満足度、研修方法に対する評価において「大体良かった」「良かった」と回答しており、満足度の高さが伺えた。また、自由記載には事例検討とディスカッションにより、実習の場で感じた悩みや思いを共有できる機会があった、自分の指導、病棟の指導を振り返る場となった、グループワークで学びを可視化できてよかった、等の記述があった。本講習会の目的である実習指導者としての役割を振り返り、指導観の再構築を図ることについては達成できた。

5. 課題

企画当初は8月に開催を予定していたが新型コロナの影響でやむを得ず1月に延期となった。大雪での悪天候により遅れて到着される受講生もいた。アンケートからも気候の影響を受けにくい時期での開催を希望が多かったことから開催時期について検討が必要である。



II. 島根県看護教員継続研修

1. 目的

看護教員のキャリアアップを支援する事業として、看護教員としての資質・能力の向上を図り、看護基礎教育の一層の充実を図る。

2. 事業内容

島根県より「島根県看護教員継続研修」の委託を受け、研修会の運営・実施（企画担当／県）を行った。研修は、全ての看護教員を対象とした『組織力を高める研修』、『教育力を高める研修』を実施した。

3. 事業実施状況

組織力を高める研修

- 1) 日 時：2022年8月5日（金），6日（土）10:00～16:00
- 2) 場 所：Zoomによるオンライン講義
- 3) 講 師：三浦 友里子氏 聖路加国際大学大学院 看護学研究科
- 4) 対 象：島根県の看護教員
- 5) 参加者：看護教員 30名

教育力を高める研修

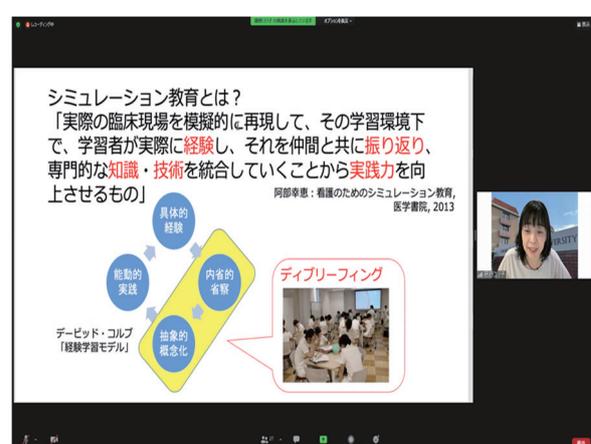
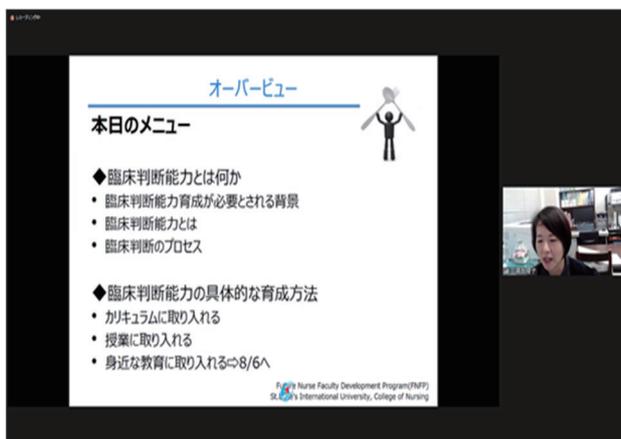
- 1) 日 時：2022年9月2日（金），3日（土）10:00～16:00
- 2) 場 所：Zoomによるオンライン講義
- 3) 講 師：藤野 ユリ子氏 福岡女学院看護大学
- 4) 対象者：島根県の看護教員
- 5) 参加者：看護教員 23名

4. 成果

両研修とも Zoom によるオンライン講義であったが、グループワークが実施できた。研修後の参加者によるアンケートでは、両研修共に受講者全員が「満足、やや満足」としており、研修内容は今後の教育に活用できると回答していた。このことから、満足度と有用度はともに高い研修であったと考えられた。

5. 課題

研修は 20 名の募集枠に対して、定員を上回った。カリキュラム改正により、養成機関のニーズがあり、両講座ともタイムリーな内容であった。シミュレーションについては、要望が高いが、養成機関による差があり、講師との打ち合わせが必要と考える。



I. 看護研究力の向上(個別研究支援・看護)

1. 目的

研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、立案された看護研究計画に基づき、個別的で継続した研究指導を行い、研究実施につなげる。

2. 事業内容

原則として「臨床看護研究計画書立案研修」を受け、研究計画が立案できており、実際に看護研究を行う予定の個人またはグループ(1課題)を対象とし、研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、研究実施につなげる。

3. 事業実施状況

継続指導 2 件, 新規指導 3 件の個別研究支援を実施した。

4. 成果

継続した研究指導により研究を遂行し、自施設等での研究発表に繋がった。

5. 課題

本事業は臨床看護研究計画書立案研修を受講し、研究計画書が完成している人を対象にしており、引き続き支援希望者のニーズに沿った臨床看護研究計画立案研修のあり方と研究指導について検討が必要である。

Ⅱ. 栄養に係る専門職の研究力の向上(個別研究支援・健康栄養)

1. 目的

管理栄養士・栄養士等の研究活動を支援することを目的に、研究に関する総合的な相談・支援を行う。相談内容に応じて、研究の個別指導、倫理審査等への支援に繋げる。

2. 事業内容

申請条件は特に設けず、病院、施設、行政、企業等の各現場で活動する管理栄養士・栄養士等の研究テーマや必要とする支援内容に応じて、個別の継続指導を行う。

3. 事業実施状況

継続指導 2 件の個別研究支援を実施した。

4. 成果

1 件については、研究成果をまとめ、研究発表会での発表に繋ぐことができた。

5. 課題

各現場での本事業の認知度が低く、研究支援の申し込みに繋がっていないため、ホームページ等による積極的な事業のPRや、効果的な周知方法の検討が必要である。

Ⅲ. 看護研究力の向上(共同研究・看護)

1. 目的

研究テーマに応じ、共同研究を行う教員をコーディネートして研究を推進する。

2. 事業内容

原則として、研究計画が立案できており、実際に研究を行う予定の個人またはグループ（1 課題）が対象とし、研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、研究実施につなげる。

3. 事業実施状況

今年度、新規の共同研究申し込みはなかった。

4. 課題

共同研究の申し込みが少ないことから、本事業を周知することや共同研究の可能性等について検討が必要である。

IV. 栄養に係る専門職の研究力の向上(共同研究・健康栄養)

1. 目的

研究テーマに応じ、共同研究を行う教員をコーディネートして研究を推進する。

2. 事業内容

病院、施設、行政、企業等の各現場で活動する管理栄養士・栄養士の研究ニーズに応じ、教員が研究活動に参画する。

3. 事業実施状況

今年度は継続指導 1 件の共同研究を実施し、来年度も継続予定である。

4. 課題

共同研究の申し込みが少ないことから、本事業を周知することや共同研究の可能性等について検討が必要である。

I. 保健・医療・福祉機関等への講師派遣

1. 目的

病院等からの依頼に応じ、本学教員のもつ専門的知識や技術及び研究成果である「知」を提供する。

2. 事業内容

保健・医療・福祉機関等への講師派遣依頼に対する対応および講師の調整

3. 事業実施状況および成果

2022年度の保健・医療・福祉機関への講師派遣の実施状況一覧を表に示した。

2022年度の講師派遣の実績は62件であった。依頼元種別をみると保健機関が1件（2021年度1件）、医療機関19件（2021年度17件）、職能団体27件（2021年度25件）、その他17件（2021年度18件）で、Web等の活用により実施方法が多様化している。

4. 課題

講師派遣依頼は、ここ2年コロナ禍においてオンライン開催へのニーズが高まっていたが、次年度以降はコロナ前の状況に徐々に戻ると予想されるため、教育研究活動とのバランスが課題である。

講師派遣実施状況一覧

依頼元種別	実施日	依頼元	内容	担当者
1 保健機関	6月20日	島根県浜田保健所	在宅重症難病患者への支援を目的とした事前学習会 講師	山下一也教授
2 医療機関	4月1日	鹿島病院	栄養サポートチームアドバイザー	澤幸子准教授
3 医療機関	5月1日	島根県済生会 江津総合病院	看護研究指導	平井由佳准教授
4 医療機関	5月1日	島根県済生会 江津総合病院	看護研究指導	高橋梢子准教授
5 医療機関	5月13日	浜田医療センター	看護部教育研修 講師	川瀬淑子准教授
6 医療機関	5月16日	島根県立中央病院	臨床実習指導者研修 講師	森山美香教授
7 医療機関	6月1日	松江医療センター	看護部教育研修 講師	平井由佳准教授
8 医療機関	6月24日	島根県立中央病院	看護研究発表会の講評	吾郷美奈恵教授
9 医療機関	7月1日	鳥取赤十字病院	看護研修 講師	藤田小矢香教授
10 医療機関	8月31日	松江医療センター	看護研究 研究計画書：個別指導 講師	濱村美和子准教授
11 医療機関	8月31日	松江医療センター	看護研究 研究計画書：個別指導 講師	平井由佳准教授
12 医療機関	9月15日	島根県立中央病院	看護研究プロセスにおける看護研究計画書および看護研究論文の指導	吾郷美奈恵教授
13 医療機関	10月7日	出雲市立総合医療センター	看護研究発表会 講師	大塚美樹教授
14 医療機関	11月4日	出雲市立総合医療センター	アドバンス・ケア・プランニング研修会 講師	大塚美樹教授
15 医療機関	12月23日	島根県立中央病院	看護職員研修 講師	梶谷みゆき教授

16	医療機関	1月28日	隠岐広域連合隠岐病院	看護研究 講師	森山美香教授
17	医療機関	2月9日	島根県立中央病院	看護研究プロセスにおける看護研究論文の指導	吾郷美奈恵教授
18	医療機関	2月9日	島根県立中央病院	看護研究プロセスにおける看護研究論文の指導	岡安誠子教授
19	職能団体	5月2日	日本看護協会	看護管理者を対象とした相談支援事業 講師	加藤典子准教授
20	職能団体	6月1日～	島根県助産師会	バースディプロジェクト	石原愛弓助手
21	職能団体	6月1日～	島根県助産師会	バースディプロジェクト	植田恵助教
22	職能団体	7月8日	岡山県介護福祉士会	認定介護福祉士養成研修 講師	谷口敏代教授
23	職能団体	7月27日	島根県看護協会	令和4年度都道府県看護協会母子のための地域 包括ケアシステム推進会議	濱村美和子准教授
24	職能団体	7月30日	島根県栄養士会	出雲地区栄養士会研修会 講師	名和田清子教授
25	職能団体	8月13日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 演習支援	荒木さおり助教
26	職能団体	8月16日	島根県看護協会	圏域別看護関係者連絡会議 看護相談員	梶谷みゆき教授
27	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	川瀬淑子准教授
28	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	濱村美和子准教授
29	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	平井由佳准教授
30	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	高橋梢子准教授
31	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	佐藤美紀子講師
32	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 演習支援	加藤さゆり講師
33	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 演習支援	松谷ひろみ講師
34	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 演習支援	日野雅洋助教
35	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 演習支援	小田香澄助教
36	職能団体	10月21日	日本精神科看護協会	看護研究論文推薦会議	大森眞澄教授
37	職能団体	10月22日	島根県看護協会	新人助産師集合研修 講師	濱村美和子准教授
38	職能団体	10月24日	島根県看護協会	新人看護職員研修教育担当者研修会 講師	岡安誠子教授
39	職能団体	12月18日	島根県栄養士会	2022年度生涯教育研修会 講師	直良博之教授
40	職能団体	12月22日	島根県栄養士会	2022年度生涯教育研修会 講師	名和田清子教授
41	職能団体	1月29日	島根臨床検査技師会	タスクシフト研修会 講師	森山美香教授
42	職能団体	1月29日	島根臨床検査技師会	タスクシフト研修会 講師	平井由佳准教授
43	職能団体	1月29日	島根臨床検査技師会	タスクシフト研修会 講師	阿川啓子准教授
44	職能団体	2月16日	島根県栄養士会	2022年度生涯教育研修会 講師	中畑典子講師
45	職能団体	2月23日	島根県看護協会	指導者のための臨床看護研修 講師	佐藤美紀子講師
46	その他	4月13日	サンキ・ウエルビー株式会社	在宅医療について 講演講師	阿川啓子准教授
47	その他	4月20日	出雲市	21世紀出雲産業支援センター 技術顧問	籠橋有紀子教授
48	その他	7月5日	島根県教育庁保健体育課	メディアに関する教室の講師	小田美紀子教授
49	その他	7月27日	島根県教育センター	新規採用養護教諭研修 講師	渡邊克俊講師
50	その他	7月27日	島根県教育センター	新規採用養護教諭研修 講師	佐藤基助教

51	その他	8月27日	熊本保健科学大学キャリア教育研修センター	脳神経看護セミナー 講演講師	佐藤美紀子講師
52	その他	9月16日	西南女学院大学	認定看護管理者教育課程セカンドレベル 講師	石橋照子教授
53	その他	9月26日	島根県牛乳普及協会	令和4年度牛乳・乳製品料理コンクール島根県大会審査委員長	名和田清子教授
54	その他	9月29日	出雲市役所	出雲市親子健康づくりネットワーク会議 委員	狩野鈴子准教授
55	その他	11月1日	広島大学	「母性看護方法演習」母子・親子相互関係形成促進の支援 講師	井上千晶准教授
56	その他	11月3日	リハビリテーションカレッジ島根 OB会	OBOGを対象とした研修会 講師	澤幸子准教授
57	その他	11月30日	豊橋創造大学 豊橋創造大学短期大学部	2022年度第2回FD講演会 講師	吾郷美奈恵教授
58	その他	1月17日	介護労働安定センター	認知症研修 講師	荒木さおり助教
59	その他	1月26日	島根県教育センター	新規採用養護教諭研修 講師	渡邊克俊講師
60	その他	1月26日	島根県教育センター	新規採用養護教諭研修 講師	佐藤基助教
61	その他	1月27日	島根大学医学部	地域医療 講演講師	中畑典子講師
62	その他	2月9日	介護労働安定センター 島根支部	老化と認知症の理解 講師	荒木さおり助教

Ⅱ－２．2022年度事業実績－地域連携推進部－

プロジェクト名：生涯学習

I．公開講座

1. 目的

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

2. 事業実施状況

表1 公開講座開催状況及び受講者数一覧（2022年度）

	講座名	開催状況
1	食と健康にかかわる最近のトピックス（1） 食と健康にかかわる最近のトピックス（2） 食と健康にかかわる最近のトピックス（3）	オンデマンド 配信（7月）
2	泥にまみれた思い出のアルバムを復元する『写真洗浄』講座	オンデマンド 配信（9月）
3	出産前後のママニティークラス ～心と体を温める お母さんと赤ちゃんのための温活塾～ （1）妊娠期 （2）分娩期 （3）産褥新生児期	オンデマンド 配信（9月）
4	炎症性腸疾患食事学習会「楽しく作って美味しく食べる」（1）	オンデマンド 配信（12月）
	炎症性腸疾患食事学習会「楽しく作って美味しく食べる」（2）	
		延べ動画再生回数 122回
		申込者数 18名

3. 広報

出雲キャンパス SNS などを活用し幅広く広報を実施した。

4. 成果

2022年度は講座の開催方法は感染予防対策として主にオンデマンド配信を行った。看護栄養学部の特徴を生かし健康に加え栄養に関する講座を昨年に引き続き開催した。視聴エリアは3割が島根県西部と米子の在住であった。オンデマンド配信は受講者の都合やタイミングに合わせ繰り返し視聴できる利点がある一方、受講者とのやり取りが限定される課題があった。

5. 課題

2022年度はオンデマンド配信のみであった。今後は対面型の講座運営を主として、感染対策や遠方からの参加ニーズに応じてオンデマンド配信での講座を検討する必要がある。また、広報について周知方法や開講時期、ニーズ等検討が必要である。

表2 2022年度公開講座実施状況

	開催日時	講師	講座名	再生回数
1	7月	直良 博之 原田 永勝 名和田清子 中川 忠彦 石田千津恵 川谷真由美	食と健康にかかわる最近のトピックス (1) 食と健康にかかわる最近のトピックス (2) 食と健康にかかわる最近のトピックス (3)	88
2	9月	渡邊 克俊 佐藤 基	泥にまみれた思い出のアルバムを復元する『写真洗浄』講座	8
3	9月	藤田小矢香 井上 千晶 中谷 陽子 石原 愛弓	出産前後のマタニティークラス ～心と体を温める お母さんと赤ちゃんのための温活塾～ (1) 妊娠期 (2) 分娩期 (3) 産褥新生児期	20
4	12月	名和田清子 中川 忠彦	炎症性腸疾患食事学習会「楽しく作って美味しく食べる」(1) 炎症性腸疾患食事学習会「楽しく作って美味しく食べる」(2)	6

表3 2022年度いづも健康市民大学実施状況（開催場所：オンデマンド）

開催日時	講師	講座テーマ	再生回数
8月	石橋 照子	開講式	16
	福田 詩織	骨粗鬆症予防の食事について	29
9月	佐藤美紀子	高血圧の予防と管理	12
10月	籠橋有紀子	心理と食の関係パート3	8
	加藤 典子	自分らしく「生きる」ために～人生会議：ACPってなに？	16
11月	秦 幸吉	脳の老化を防ぐための健康法	23
	多々納 浩	“腸”の健康に役立つ食事と運動について	15
12月	狩野 鈴子	孫育て講座	5
	中畑 典子	お雑煮で日本を旅しよう “一足先にお正月気分” part2	7
	石橋 照子	閉講式	7

* 申込者 15 名

II. ぎんざんテレビ出前講座

1. 目的

石見銀山テレビ放送が放映する出前講座を通して、島根県立大学教員が、地域住民が健やかな生活を送るために役立つ幅広い知識を普及することにより、地域に貢献する。

2. 事業内容

本事業は2010年から開始された。収録担当教員は出前講座の台本またはPPTスライド資料を作成し、それらをもとに収録を行う。収録後テレビ局で編集されたデータが大学に送付されるので、収録担当教員は内容を確認し修正があればテレビ局にその旨を伝える。収録担当教員の承諾後講座が放映となる。放映時間は5分である。

3. 事業実施状況

表 ぎんざんテレビ出前講座担当一覧

講座タイトル	担当教員	収録日	収録場所
石鹸を使った手洗い・消毒ジェルの正しい使い方	川瀬 淑子	4月15日	大学
骨髄バンクの登録等について 〈サークル活動報告(あかえんぴつくん)〉	渡邊 克俊 小田 香澄	4月13日	大学
食中毒予防(台所の包丁、まな板、ふきんの消毒)	石田 千津恵	4月27日	大学
こどもの成長に必要な栄養	中畑 典子	4月19日	大学

4. 成果

表に示す通り、今年度は看護学科2講座、健康栄養学科2講座の計4講座を放映した。前年度の終わりから年度初めに収録予定を立て、新型コロナウイルス感染症の影響も少なく概ね計画通りに実施した。収録日と場所は担当教員の希望に沿って収録することができた。本講座は、ぎんざんテレビ放送エリアの病院、薬局、金融機関、役所の待合でも放映されており、年間を通じてかなりの回数が放送された。今年度から学生の出演機会があり、とても好評である。

5. 課題

次年度以降も引き続き感染対策を行いながら、地域のニーズに合わせた講座の内容や数を検討していく。また、情報配信に配慮し可能な範囲で学生との共同番組を計画し、より学生を身近に感じてもらえるような番組作りを検討していく。

Ⅲ. 地域、団体主催による出前講座

1. 目的

本学の専門的、総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開するため、地域や各種団体からの依頼に対応し、看護に関する知識・技術及び一般教養を身につける学習の機会を提供する。

2. 事業内容

看護栄養交流センター窓口への講師派遣依頼に対応し、希望テーマや教員、条件などを詳細に聞き取りした後で出雲キャンパス教員の中から適任者を選び、承諾を得た後、依頼者に紹介する。出前講座の実施状況について、講座担当教員に実施報告書の提出を求め、ホームページに出前講座の様子を掲載する。次年度に開講可能な一般向けテーマ登録の募集を行い、一覧をホームページに掲載する。

3. 事業実施状況

出雲キャンパスの教員が開催可能なテーマを一覧表にし、チラシを作成した。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ホームページへのテーマ一覧の公開は行わず、個別に問い合わせのあった団体等へ担当職員が講師派遣のコーディネートを行った。講師の派遣依頼は、2022年4月から2023年3月まで継続的にあり、看護栄養交流センター地域連携推進部にて出前講座の依頼を受け付けた。

2023年度の準備として、地域貢献登録カードにより教員から開催可能なテーマの事前登録を募り、提出されたテーマを一覧表にし、チラシ原稿を作成した。

4. 成果

2022年度は、19件の出前講座を実施した。依頼元は、地域のコミュニティセンターやNPO法人等があり、内容は、介護予防、ロコモ・フレイル予防、健康維持や人生会議が多数を占めた。出前講座が地域や各種団体に対し、健康や看護・栄養に関する知識や技術、一般教養を学ぶ機会として期待されている状況がうかがえる。

5. 課題

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響はあったが、講座の開催数は昨年度と同程度であった。次年度においては、新型コロナウイルス感染症対策が新たな段階に移行し対面での講座開催のニーズが増えると考えられることから、出前講座を積極的に利用していただけるよう、ホームページへのテーマ一覧の掲載などにより周知する必要がある。

表5 2022年度 地域連携推進部 出前講座実施一覧

No.	教員名	実施日		依頼元	内容
		月	日		
1	小田 美紀子	11	12	出雲市幼稚園PTA連合会	第15回教育振興大会での子育てに関わる講演講師
2	名和田 清子	12	17	島根県保育協議会	島根県保育研究大会研究発表における指導・助言
3	名和田 清子	1	12	まつえ市民大学運営協議会	まつえ市民大学「いきいき健康コース」講師
4	林 健司	4	22	荒木コミュニティセンター	健康づくり大学プレ講座講師
5	林 健司	6	10	鶴鷺コミュニティセンター	セラバンド体操教室講師
6	林 健司	11	16	須佐コミュニティセンター	セラバンド体操教室講師
7	林 健司	2	4	今市コミュニティセンター	セラバンド体操教室講師
8	荒井 恵美子	8	30	JAしまね出雲地区本部ふれあい福祉課	高齢者の食事についての講演講師
9	祝原 あゆみ	12	8 12	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師

10	小川 智子	2	9 20	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
11	加藤 さゆり	6	16	出雲市医療介護連携課	在宅医療座談会講師
12	加藤 さゆり	10	23	大龍寺女性部	大龍寺檀家女性部役員研修会講師
13	加藤 さゆり	11	14	多伎コミュニティセンター	人生会議についての講演講師
14	加藤さゆり	3	23 27	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
15	中畑 典子	8	1 2	(一社) 益田ヘルスケア推進協会	減塩と野菜摂取についての講演講師
16	中畑 典子	8	8	出雲市健康増進課	食のボランティア育成講座講師
17	渡邊 克俊	10	9	出雲市民生委員児童委員協議会	民生委員、児童委員、主任児童委員研修会講師
18	荒木 さおり	1	16 19	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
19	荒木 さおり	2	27	川跡長生会連合会	健康長寿についての講演会講師

プロジェクト名:教育機関との連携

I. 小中高校等出前講義

1. 目的

小中高校生のための保健医療福祉に関する講義の依頼に応じる。

2. 事業内容

センターあるいは教員に小中高校から講師依頼があった場合、講師を調整し講義を実施した。

3. 事業実施状況

表1 2022年度 小中高校等出前講義実施一覧

No.	教員名	実施日		依頼元	内容
		月	日		
1	今中 美栄	10	13	島根県立大田高等学校	大学研修における講演会 講師
2	大森 眞澄	10	20	松江西高等学校	介護職員初任者研修講座 講義
3	大森 眞澄	11	16	島根県立三刀屋高等学校	学校訪問における講義
4	岡安 誠子	7	19	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
5	岡安 誠子	7	26	島根県立出雲高等学校	山陰探究サミット審査員
6	小田 美紀子	7	5	島根県教育庁保健体育課	出雲市立第二中学校でのメディアに関する教室 講師
7	籠橋 有紀子	6	21	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
8	籠橋 有紀子	7	26	島根県立出雲高等学校	山陰探究サミット審査員
9	籠橋 有紀子	9	1～	島根県立出雲高等学校	課題研究指導・助言
10	加納 尚之	9	1～	島根県立出雲高等学校	課題研究指導・助言
11	高橋 恵美子	10	23	大田市立五十猛小学校	メディアにつながる「脳科学」に関する講演 講師
12	名和田 清子	11	16	島根県立松江養護学校	寄宿舍学習会 講師
13	阿川 啓子	10	13	島根県立大田高等学校	大学研修における講演会 講師
14	落合 のり子	7	21	島根県立松江南高等学校	課題研究に関わる指導
15	狩野 鈴子	6	23	出雲市立神西小学校	「思春期にあらわれる心と体の変化」講師
16	狩野 鈴子	6	23	島根県立出雲農林高等学校	性に関する講演会 講師
17	狩野 鈴子	11	8	出雲市立第二中学校	性に関する講演会 講師
18	狩野 鈴子	11	22	島根県立出雲工業高等学校	性に関する講演会 講師
19	狩野 鈴子	12	6	出雲市立西野小学校	「命の尊さ性・生」講演会 講師
20	狩野 鈴子	1	30	出雲西高等学校	性教育についての講演 講師
21	澤 幸子	7	21	島根県立松江南高等学校	課題研究に関わる指導
22	澤 幸子	12	12	島根県立大田高等学校	大学研修における講演会 講師
23	高橋 梢子	11 12	10 8	島根県立出雲高等学校	出雲高校 PDGz セミナー 講師
24	小川 智子	12	12	島根県立大田高等学校	大学研修における講演会 講師

25	加藤 さゆり	9	8	出雲市立出雲第三中学校	福祉体験講座における講話・体験活動 講師
26	中川 忠彦	3	14	島根県立出雲高等学校	出雲高校 PDGz セミナー 講師
27	渡邊 克俊	3	14	島根県立出雲高等学校	出雲高校 PDGz セミナー 講師
28	安部 史子	11 12	10 8	島根県立出雲高等学校	出雲高校 PDGz セミナー 講師
29	植田 恵	8	24	浜山保育園	バースデイプロジェクト 講師
30	植田 恵	12	21	出西保育園	バースデイプロジェクト 講師
31	植田 恵	1	17	出雲市立荘原幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
32	植田 恵	1	17	出雲市立平田小学校	バースデイプロジェクト 講師
33	植田 恵	1	19	出雲市立北陽小学校	バースデイプロジェクト 講師
34	植田 恵	1	24	出雲市立塩冶幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
35	植田 恵	1	24	出雲市立北浜小学校	バースデイプロジェクト 講師
36	植田 恵	2	9	出雲市立塩冶小学校	バースデイプロジェクト 講師
37	植田 恵	2	17	出雲市立遥穂小学校	バースデイプロジェクト 講師
38	荒木 さおり	12	6	松江西高等学校	介護職員初任者研修講座 講師
39	日野 雅洋	9	8	出雲市立第三中学校	福祉体験講座における講話・体験活動 講師
40	福田 詩織	11	2	島根県立大社高等学校	PTA 教育研修会 講師
41	石原 愛弓	7	7	奥出雲町立八川小学校	バースデイプロジェクト 講師
42	石原 愛弓	2	8 9	出雲市立塩冶小学校	バースデイプロジェクト 講師
43	石原 愛弓	2	21	雲南市立西小学校	バースデイプロジェクト 講師

4. 成果と課題

今年度は、高大連携による出前講座が 23 件あり、小中学校への出前講座は 15 件、幼稚園・保育編への出前講座が 4 件、特別支援学校への出前講座が 1 件あった。新型コロナウイルス感染拡大の影響はあったが、昨年度より依頼が増加した。

Ⅱ. 小中学校体験学習

1. 目的

小中学生のための保健医療福祉に関する体験学習の依頼に応じる。

2. 事業内容

小学校からの依頼に対して、保健医療福祉に関する 1) ～3) の体験学習を行う。

- 1) 高齢者体験
- 2) 車椅子体験
- 3) ブラインドウォーク
- 4) 調理実習室, 臨床栄養実習室見学

3. 事業実施状況

新型コロナウイルス感染症予防のため、アルコール消毒や換気を行いながら 2 回開催した。

日時：2022年6月20日（月） 9:30～11:30

対象：出雲市立神西小学校3年生

参加者：30名

日時：2022年6月29日（水） 9:20～10:20

対象：出雲市立北陽小学校2年生

参加者：52名

I. 包括協定締結自治体との連携

1. 目的

包括協定を締結している自治体との連携を図ることにより、地域社会のニーズや課題に対応する事業を協働で企画・実施する。

2. 事業内容

昨年度までに包括連携協定を締結した松江市・出雲市・浜田市・益田市・隠岐の島町・津和野町・知夫村・海士町・川本町・邑南町・安来市に加えて、今年度は大田市・雲南市・江津市・飯南町との包括連携協定を締結した。連携協定に基づく具体的事業について、個別に協議しながら取り組みを展開する。自治体との協力について、具現化のために学内調査を行い、合意に至った事業から順次実施する。

3. 事業実施状況

- 1) 出雲市と協働で東地区介護予防教室事業を行った。
- 2) 出雲子育て支援センター「はぐはぐ」を出雲キャンパス内に開設中。
- 3) 関係自治体において、島根の地域医療フィールドワークや臨地実習、保健師インターンシップ等の受入れの協力を得た。

4. 成果

出雲市との協働事業については、「Ⅱ－2. 共同事業：出雲市 東地区介護予防教室事業」参照。

5. 課題

出雲市と協働で実施している介護予防教室事業については、これまで数年間継続して実施している事業であり、認知度も上がり、成果も現れている。

コロナ禍において、なかなか自治体との連携事業も実施が困難な状況であったが、次年度以降は状況を見ながら、少しずつ積極的な活動を展開したい。

II-1. 受託研究

1. 目的

自治体、関係団体、企業等からの受託研究についての依頼に対し、調整し、実施につなげる。

2. 事業内容

2022年度は、以下の研究を受託し、実施した。

表1 2022年度受託研究実施一覧

	委託者	研究題目	研究者代表者	受託金額(円)
1	島根県	ライフスタイルに適応した生産・販売を目的とする 島根米の特性の見える化	籠橋 有紀子 教授	500,000
2	島根県	健康な食環境づくり事業	名和田 清子 教授	347,875
3	株式会社しちだ・教育研究所	七田式いきいき脳開発プログラム事業	梶谷 みゆき 教授	135,626
4	益田市共同研究	美都地域の二川小学校跡地DE「笑顔と輝き再び」 チャレンジ～美都地域魅力化発信プロジェクト実証 研究～	今中 美栄 教授	700,000

3. 成果及び課題

昨年度同様、実施件数は4件だった。

今後も看護栄養交流センターのホームページの充実に努め、委託希望があれば対応を行う。

Ⅱ－２．共同事業：出雲市 東地区介護予防教室事業（いつまでも元気教室）

1. 目的

出雲市と島根県立大学出雲キャンパスとの協働により、高齢者の認知機能の維持改善や体力作りのみでなく、活動を通して地域での活動に関わる人材の育成、地域のネットワークづくりを図ることである。

2. 事業内容

期間：2022年5月18日～2023年3月1日

時間：9:30～11:30

業務受託の場所：東地区（東コミュニティーセンター）

事業受託料：565,634円

関係機関：出雲市健康福祉部医療介護連携課

出雲キャンパス事業担当者：4名（梶谷みゆき、松本玄智江、木村早希、太田裕介）

3. 事業実施状況

1) 事前調査・事後調査 各1回 各16名

教室開始時と終了時に体力測定（握力・歩行速度）、体組成（身長、体重、BIMなど）、骨密度、栄養状態（上腕周囲長・下腿周囲長）、社会関連指標、老研式活動能力指標、JST版活動量力指標、認知機能（HDS-R、MMST）などを測定した。

2) 介護予防教室 13回 平均16名程度

毎回の教室は、自己血圧測定、脳トレ、出雲いきいき体操、メインテーマ、終わりの会（懐かしの歌、教室参加の感想記載など）で構成した。メインテーマは、ミニ講話、お楽しみ企画を組み合わせる計画し、地域活動の人材育成を含めて、地元で趣味活動を行っている方を講師に招いた（おなじみ先生）企画を2回実施した。

4. 成果及び課題

東地区の東元気クラブを中心に参加者を募集し20名の参加登録者があり、継続的に参加された方は18名であった。途中から1名が参加され、また、飛び入りの参加者もあり、平均16名の方が参加されたことは評価できると考える。また、自己血圧測定やメインテーマについては希望を聞きながら設定したり、出雲いきいき体操では参加者に体操リーダーになってもらったりすることで参加者の自主性を引き出すことができたのではないかとと思われる。初回のメインテーマでスマートフォンについてのミニ講話を計画し、その場でLINEグループを作成することができ、参加者同士の連絡や、お知らせ、欠席の連絡などに活用することができた。また、11月には宍道湖畔のサイクリングコースに出掛けてノルディックウォーキングを楽しむことができ、参加者の多くがポールを購入し自主的な活動につなげることができた。教室終了後には、東元気クラブに活動を引き継ぐことができ、今後も参加者の健康を支える活動になることが期待できる。

COVID-19感染対策をしながらの教室開催であったが、幸い計画通り実施することができた。今後も参加者のニーズをとらえて、参加しやすい、また、参加してよかったと思ってもらえるような教室の企画運営をしていくことが課題である。



第13回「苔玉作りに挑戦 ～苔玉でメリークリスマス～」講師：おなじみ先生

Ⅲ. NPO 法人・関係団体・企業との連携

1. 目的

NPO 法人・関係団体・企業との連携を図る。

2. 事業内容

NPO 法人・関係団体・企業から申し出のあった研究テーマや必要とする連携・支援内容に応じて各組織のニーズに対して本学のシーズとのマッチングを図り、教育研究開発等における地域との産学官連携により共同事業を行う。

3. 事業実施状況

いずも産業未来博については、感染状況が不透明な状況であり、また、非対面型の場合、参加者に満足してもらえる展示ができるか難しいという判断から、今年度の出展は見合わせた。また、その他の産学官連携活動については、商品開発に関する新規4件の問い合わせがあり、連携活動に関する3件の相談があった。

4. 成果

問い合わせ、相談のあった7件について、センター担当教職員との面会を設定し、情報交換を行った。

5. 課題

問い合わせ、相談を受けた事案について、具体的な取組になかなか繋がらないことが大きな課題である。新たな産学官連携の方法についての検討も必要であるとする。

IV. 各種審議会・委員会等への参加

1. 目的・事業内容

教職員が各種審議会・委員等の委員活動を通して地域に貢献する。

2. 事業実施状況

2022年度は全体で95件の各種審議会，委員会等へ所属し，活動を行った。

内訳は，表1のとおりである。

表1 2022年度に教員が参加した審議会・委員会の内訳

	依頼元機関	件数
1	医療機関等	5件
2	教育機関等	8件
3	自治体等	41件
4	職能団体等	15件
5	その他	26件
	合計	95件

I. キャンパスモニター会議

1. 目的

本キャンパスに対する地域住民の理解と連携を深め、地域に開かれたキャンパスをめざす。そのために、近隣地域よりモニターを募集し、本キャンパスの運営や事業、安全確保について意見や批評、情報を求め、今後の活動に反映することを目的とする。

2. 事業内容

5名の地域住民にキャンパスモニターを委嘱し、本キャンパスの年間行事（公開講座など）のご案内、キャンパスモニター会議の開催により、本キャンパスに対する理解を深めてもらう機会とした。

キャンパスモニター会議では、本キャンパスの教育研究活動、地域貢献活動、学生生活に関する活動について説明し、学生生活を送る上での安心・安全の確保や地域との連携、地域貢献等に関する意見交換を行う場とした。

3. 事業実施状況

キャンパスモニター会議

- 1) 開催方法：書面会議（COVID-19の感染拡大を受け、書面会議とした。）
- 2) 開催期間（協議期間）：2023年3月31日～4月10日
- 3) 参加者：キャンパスモニター5名、副学長、学部長、看護学科長、健康栄養学科長、学生生活部長、地域連携推進委員会委員長、地域連携推進委員会委員4名、計15名

その他

キャンパスモニターの皆様に対して、公開講座のご案内を行った。

キャンパスモニターの皆様のご意見を随時受け付ける窓口を設置した。

4. 成果

キャンパスモニターの皆様から、①学生の安心・安全の確保（危機管理意識の醸成、防犯対策、通学路の整備、自転車運転時のヘルメット着用など）、②教育・研究活動（県内入学率向上や入試について、県内就職促進について）、③地域貢献活動・地域に開かれた大学（出前講座、公開講座、学生・地域住民の交流など）に関するご質問、ご意見、ご提案をいただいた。ご提案については、次年度の活動等に反映させることとした。

書面会議では、COVID-19の影響がある程度落ち着き、今後は学生の積極的なボランティア活動や地域での交流活動を期待するご意見や、本学が取り組んでいる入試制度改革についても、建設的なご提案が寄せられた。また、オンラインマルシェやワークカフェなどのキャリア支援を評価していただき、本学が目標とする県内就職率50%達成への、地域の皆様の期待が非常に大きいこともうかがえた。

今後も、本会議がより活発な意見交換の場となるよう、キャンパスモニターの皆様のご意見を反映させて、本学により親しみを持ってもらえるよう、情報発信や各学科の一層のPR活動を行い、地域に開かれた大学を目指すべく、より良いキャンパス運営に努めたい。

I. フォローアップ研修に関すること

1. 目的

それぞれの看護専門分野において、熟練した看護技術と知識を用いた水準の高い看護実践のできる認定看護師に必要なスキルアップを図る。

2. 事業内容

認定看護師のスキルアップに必要なフォローアップ研修のプロジェクト会議を開催し、修了生等との連絡調整を行いながら、研修の企画運営を行う。

3. 事業実施状況

1) フォローアップ研修に関するプロジェクト会議を1回開催した。

昨年度に開催したフォローアップ研修でのアンケート結果（研修テーマの希望）について、各修了年度の代表によるフォローアップ研修メンバーと情報共有した。認定看護師のスキルアップに必要なフォローアップ研修のテーマ選定、開催時期について協議を行った。

2) 本課程修了生によるフォローアップ研修の企画に関するサポートを実施した。

4. 成果

フォローアップ研修メンバーによって協議した結果、令和4年度は企画・準備を行い、令和5年度にフォローアップ研修を開催することを決定した。フォローアップ研修メンバー内での代表者を決定し、代表者を中心にテーマに関する意見集約およびテーマ選定理由の明確化を進めている。

5. 課題

修了生が研修の企画・運営の一部を担う事も認定看護師に必要なスキルのひとつであると位置づけている。フォローアップ研修のニーズは確認できているが、過去のテーマとも照らして緩和ケア・認知症看護それぞれの領域に共通する課題の選定を慎重に行う必要がある。実践の場で看護の専門性とその質の維持・向上を目指していけるよう、また、修了生の企画・運営力の向上の機会となるようフォローアップ体制の整備・継続をしていく。

II-1. 教育課程開設に関すること

1. 目的

感染管理分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる感染管理認定看護師を育成する教育課程を開講する。

2. 事業内容

島根県の委託を受け、感染管理認定看護師養成に必要な教育課程、講師・実習施設等の案を協議し、令和5年度開講にむけた感染管理分野の開講準備と申請を行う。

3. 事業実施状況

- 1) 感染管理分野（B課程）開講申請のためのプロジェクト会議を19回開催した。
- 2) 感染管理認定看護師養成に必要な履修要項、実習要項等を作成し、日本看護協会へ認定申請を行う。
- 3) 感染管理分野開講の承認を受けた。

4. 成果

大学内外の関係者、講師の協力を受け要項の作成を行い、感染管理分野開講の認定を受けることができた。

5. 課題

開講初年度であり、円滑で効果的な教育課程の遂行ができることにある。

II-2. 学生募集・入学試験に関すること

1. 目的

感染管理分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる感染管理認定看護師養成のための学生募集と、入学試験を行う。

2. 事業内容

感染管理分野の入試プロジェクトを立ち上げ、感染管理分野の学生募集と入学試験の準備及び入学試験を実施する。

3. 事業実施状況

- 1) 感染管理分野開講に関するプロジェクト会議を19回開催した。
- 2) 募集要項、リーフレット等の作成と配布を行った。配布部数（募集要項120部、リーフレット341部）。
- 3) 受験生確保対策として、県内外の関係施設を訪問した。
- 4) 事前説明会を開催し、内容は以下の通りで、延べ39名の参加があった。

日時	9月15日(木)	10月20日(木)
方法	オンライン(ZOOM)	
人数	24	15

- 5) 看護職・関係者を対象に、感染管理分野における教育課程の開講周知を目的に、キックオフセミナーを開催した。内容は以下の通りで、各回多数の参加があった。

感染症新時代に学ぶ in 島根県立大学出雲キャンパス(4回シリーズ)		
日時	テーマ	講師
6月29日(水) 10:40~12:10	感染拡大防止の最前線 ～感染症対策からみた保健活動の現在と未来～	中本稔氏 (出雲保健所・所長)
7月13日(水) 10:40~12:10	ポリオ根絶活動から学ぶ感染症対策	松本祐二氏 (益田医師会・会長)
9月14日(水) 10:40~12:10	感染症新時代に臨む感染管理認定看護師	細田清美氏 (福井県済生会病院・看護師長)
10月26日(水) 10:40~12:10	感染症新時代の地域創成看護学	—

- 6) 入試委員会を2回開催した。入学試験の方法協議及び合否判定を行った。
- 7) 入学試験の実施
 - (1) 願書受付：令和5年1月6日(金)～1月13日(金)
 - (2) 入学試験：令和5年2月10日(金)
 - (3) 合格発表：令和5年2月17日(金)…19名の合格発表を行った。
- 8) 教員会を1回開催した。

4. 成果

事前説明会、キックオフセミナー、リーフレット配布を通して、定員18名を満たす応募があった。また、計画通りに入学試験の実施と定員を上回る合格者の発表を行った。

5. 課題

次年度に向けての受験生の確保が必要である。事前説明会の工夫、病院訪問を行う。

Ⅲ. 資料

1. 事業に関する報道資料一覧

No.	掲載紙/発行日/掲載面	内容/実施日
1	山陰中央新報/4月21日/19面	骨髄ドナー登録 企業と連携「あかえんびつくん」レオクラブ認証
2	島根日日新聞/4月22日/1面	骨髄ドナー登録促進に力「あかえんびつくん」がレオクラブに
3	山陰中央新報/5月26日/21面	若者視点で「産後食」考案 学生と病院関係者初会合
4	山陰中央新報/6月19日/25面	高校生との交流拠点に 安来にサテライトキャンパス
5	山陰中央新報/6月20日/21面	地元食材使用の食育評価 地域と交流、農水省が表彰（地球食堂サークル）
6	山陰中央新報/6月22日/21面	松江商高校生に「献血大切」県立大サークル学生説く（あかえんびつくん）
7	島根日日新聞/10月2日/1面	減少する“ドナー登録”を呼びかけリモートで骨髄バンクドナー登録会（あかえんびつくん）
8	山陰中央新報/10月5日/5面	骨髄ドナー登録 若者視点で推進策（あかえんびつくん）
9	山陰中央新報/11月16日/23面	県立大が平田に認知症カフェ
10	島根日日新聞/12月15日/3面	学内をライトアップ 糖尿病予防の研究成果も発表
11	島根日日新聞/12月16日/3面	県大生と子ども食堂がコラボ
12	山陰中央新報/12月17日/21面	手作り菓子で笑顔に 県立大生と子ども食堂協力
13	山陰中央新報/12月27日/19面	正月といえば「雑煮」地域色豊か種類多い島根_1
14	山陰中央新報/12月27日/19面	正月といえば「雑煮」地域色豊か種類多い島根_2
15	山陰中央新報/1月21日/19面	おいしく栄養ある産後食 県立大生考案し試食会
16	島根日日新聞/1月30日/1面	県大と飯南町が連携協定
17	島根日日新聞/2月21日/1面	新規開業率は全国最低 連合島根と県立大学の協定に基づく共同研究の報告会が開かれる
18	島根日日新聞/3月6日/2面	くにびきマラソン 県立大の学生たち豚汁などふるまう（あかえんびつくん）
19	山陰中央新報/3月8日/21面	県立大生 干物おいしく 健康栄養学科の3.4年生がオイル漬けのマリネを開発
20	山陰中央新報/3月14日/22面	トルコ・シリアに支援を 「災害研究会」募金呼びかけ（災害研究会）
21	島根日日新聞/3月15日/1面	被災地支援に役立てて 県立大と出雲中央LCが街頭募金（災害研究会）

島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター組織運営規程

平成 25 年 10 月 1 日
島根県立大学規程第 1 1 1 号

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人島根県立大学組織規則第 38 条に規定する、看護栄養交流センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士、栄養士等の資質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学・栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的とする。

(組織)

第3条 センターの目的を果たすため、センターに次の部を置く。

- (1) キャリア・研究支援部
- (2) 地域連携推進部
- (3) 認定看護師養成部

2 前項に規定する部にプロジェクトを配し、部の具体的な事業を展開する。

(職員)

第4条 センターは、出雲キャンパスに所属する全ての教職員を構成員とする。

2 センターに、センター長のほか次に掲げる職員を置く。

- (1) 前条第 1 項各号に掲げる部の部長（以下「部長」という。）
- (2) 前条第 2 項に規定するプロジェクトのプロジェクトリーダー（以下「プロジェクトリーダー」という。）

(部長)

第5条 部長は、第 3 条第 1 項各号の部の業務を掌理する。

2 部長は、出雲キャンパス教員の中から、学長がセンター長と協議の上、決定する。

3 任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(プロジェクトリーダー)

第6条 プロジェクトリーダーは、第 3 条第 2 項に規定するプロジェクトで展開する事業を推進する。

2 プロジェクトリーダーは、出雲キャンパス教員の中から、センター長が部長と協議の上、決定する。

3 任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(運営会議)

第7条 センターに、センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置き、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関すること。
- (2) 事業計画の策定及び進行管理に関すること。
- (3) その他センターの運営に必要なこと。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長
 - (2) 看護栄養学部長
 - (3) 看護学科長
 - (4) 健康栄養学科長
 - (5) 別科長
 - (6) センター長
 - (7) 部長
 - (8) 島根県立大学出雲キャンパス合同会議専門委員会規程別表1に規定する地域連携推進委員会委員
 - (9) 事務部長
 - (10) 管理課長
 - (11) 教務学生課長
 - (12) 事務部職員
- 3 運営会議はセンター長が招集し、センター長は議長となる。
 - 4 センター長に事故があるときは、センター長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。
 - 5 運営会議は、構成員の2分の1以上の出席により成立し、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 6 議長は、運営会議の構成員以外の本学の教職員又は外部有識者を運営会議に出席させて説明を求め、又は意見を述べさせることができる。
(外部委員会)

第8条 センターの業務に関し、調査審議を行うため、外部委員会を置く。

- 2 外部委員会は、原則として毎年1回以上開催する。
- 3 外部委員会の委員（以下「外部委員」という。）は、出雲キャンパス運営委員会で選考し、学長が委嘱する。
- 4 外部委員は、10名以内とする。
- 5 外部委員会に関し必要な事項は、学長が別に定める。

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成25年10月1日から施行する。
- 2 第5条第3項、第6条第3項の規定に関わらず、この規程の施行日に部長、プロジェクトリーダーとなった者の任期は、平成27年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

2022 年度 看護栄養交流センター成果報告書（第 4 号）

編集・発行 2023 年 3 月
島根県立大学出雲キャンパス 看護栄養交流センター
〒693-8550 島根県出雲市西林木町 151 番地
TEL 0853-20-0200 FAX 0853-20-0201
[https://izumo.u-shimane.ac.jp/community/izumo/
koryucenter/](https://izumo.u-shimane.ac.jp/community/izumo/koryucenter/)

編集担当者 名和田 清子・澤田 仁美
制作・印刷 有限会社ナガサコ印刷